

# 議会制度調査特別委員会の取り組み

— 議会制度に関する議員定数、議員報酬、政務調査費を検討 —

**次期改選から議員定数を現行から2名削減し20名に**  
**議員報酬は現行のとおりに 政務調査費を現行から**  
**5,000円削減し月額15,000円に**

## ○調査経過

平成21年9月定例会において、議会制度調査特別委員会（議長を除く21名、委員長：川原 清）が設置され、議員より定数、報酬、政務調査費に関して意向調査を実施し、議会運営委員会で平成21年11月に実施した住民意向調査を参考にするなど、11回の特別委員会が開かれました。その調査の結果を3月定例会に報告しました。なお、調査にあつ

ては平成21年5月に任意の定員10名で構成する議会制度調査検討部会を設置（5回開催）し、人口規模等類似団体との財政比較、議員定数、議員報酬、政務調査費等について、議員定数班と議員報酬・政務調査費班に分担して、詳細に調査分析したものを十分に参考としながら調査しました。

## ○調査結果

### ・議員定数について [2名削減]

議員定数は、昭和22年地方自治法が公布され、第1回統一地方選挙が施行されて以来今日まで定数22名である。昭和22年当時の村の人口は7,906人で、その後都市化が進み現在は53,000人を超え、人口日本の村となっている。

的確に村政に反映させるためには現状維持の22名が必要、削減については最大で4名減という意見など様々あり、特別委員会の調査並びに議論の過程では結論を一本化するには至らず、投票にて採決を行い、最終的に特別委員会委員の過半数を占めた2名減の定数20名との結論とした。

社会情勢が大きく変わる中であって、複雑化、高度化する住民の様々なニーズに対応し

### ・議員報酬について [現行のとおりに]

議論においては、議員報酬の算定根拠、基準がなくこれを整備する必要があるのではないかと、定数を2名削減する分の予算の範囲内で若い世代が積極的に政治に参画する意欲を生むためには報酬を増やすべきとの意見もあった。一方、多様化する議員活動であっても現在の社会情勢や雇用情勢の悪化などを考慮した

場合、報酬を積極的に増加させる客観的な理由を見出すことができないとの意見もあった。結果、将来的に議員報酬の算定根拠、基準については整理し示すことが必要と考えるが、今回の結論としては、現行の議員報酬を改正しないことを結論とした。

### ・政務調査費について [5,000円削減]

政務調査費の交付額について主に議論し、現状維持または現下の社会情勢、村の財政状況により議会としても経費を削減する必要があるなどの理由により減額か、または廃止するなどの意見もあった。

さまざまな意見もあり、議論の中で結論を見出すことは困難であったため無記名投票にて採決した結果、平成15年度からの平均執行額の実績とほぼ一致する月額15,000円とするとの結論とした。

## 菓子駅線収用へ裁判 開通の見通しは

準備を進めます



▲早期の開通が望まれる菓子駅線

**問** 菓子駅線の開通が遅れているところ、先頃、収用委員会から裁判が出たが、見通しは。

**答** 21年1月27日に裁判及び明け渡し判決申立てを岩手県収用委員会に行い、3回の審理と1回の現地調査を経て、22年2月16日に判決がなされました。

その内容は、権利取得及び明け渡し期限を22年6月16日とするものであります。村では、22年度中の完成をめざし、事業期間の変更や予算の繰越など事務手続きを行っており、工事再開の準備を進め、なるべく早い時期での完成をめざします。

## 菓子駅周辺 まちづくりの方向は

**問** 菓子駅開業から4年を経過して、駅周辺の状況も変わってきているが、菓子駅線完成後の駅周辺まちづくりの方向性を伺います。

**答** 菓子駅線が完成すれば菓子駅地区まちづくり事業は一応の事業完了となります。本事業は、「鉄道を新設

し、バスや自家用車との効率的な乗り継ぎが可能な交通拠点の形成」をめざして、スタートしました。21年度に事業評価を実施し、菓子駅の利用によって積雪等の影響を受けにくい鉄道での移動が可能になったことや、駐車場や駐輪場整備により「パークアンドライド」が可能となり、運行時刻の正確性・安全性が高い鉄道路利用に寄与していることなどを評価しました。

今後の方向性については、ハード面からは村道菓子野沢線のうち、今回の事業区域の北側に位置する歩道設置事業による交通安全対策を継続することやソフト面では東部地区全体を捉えた公共交通のあり方を改めて検証し、住民や利用者が使いやすいバス交通のあり方などを考えて行きます。

**問** アンケート調査等

の結果により、当面単独村政を持続する意向とのことだが、財政的観点から見て、持続できる可能性について伺います。

**答** 中期財政計画に基づく計画的な投資を着実に実施し、中期財政計画フレームを超えるような過度な投資をしない限り、今後も単独村政を持続していくことが可能であると考えます。

## 滝沢地域デザインの 今後は

**問** 滝沢地域デザイン推進事業は10年、各まちづくり推進委員会活動も7年を経過し、転換期にあると思うが、評価と今後の方向を伺います。

**答** 各地域において、それぞれ特色ある事業活動を展開し、それにより、活動を共にする地域の仲間が増えたり、地域活動が活発になるなど、成果は現れてきています。今後

については、「事業のノウハウ」・「事業資金」・「人材不足」など課題も明らかになってきたので、個々単独でなく連携する組織として、具体的に検討していく必要があると考えています。

**問** いきいきサロン事業は高齢者の自立を支援する点で有効だと考えるが、現状と今後の方向を伺います。

**答** 運営を自治会に委託する形で実施して、13年に2か所に開設されて以来、現在7か所で開設しています。今後は、サロンと同じ目的で実施している「いきいきクラブ」のあり方とあわせて、より良い形で展開されるよう検討していきます。

**問** 高齢化が進むことにより、認知症等の患者が増えている状況ですが、早期に発見する対応策について伺います。

**答** 「地域包括支援センター」において、本人や家族、医療機関、民生委員などから寄せられる認知症等課題のある高齢者の相談にできるだけ早期に対応するよう努めており、必要に応じて医療や介護保険サービス、福祉関係につなぐ、ワンストップサービスの拠点として、包括的・継続的支援に努めていきます。

**その他の質問**  
 ・交通政策課の中味は  
 ・若者活動支援について